


## 学位論文の要旨

フリガナ氏名	佐多孝徳 
専攻 入学年度	宮崎大学大学院農学工学総合研究科博士後期課程 資源環境科学 専攻 平成23年度(4月)入学
学位論文 題目	土地区画整理事業におけるリスクマネジメントおよび危機管理 手法に関する基礎的研究
<p><b>【論文の要旨】</b> (和文の場合1,200字程度、英文の場合800語程度)</p> <p>土地区画整理事業は我が国の代表的な都市整備手法であるが、顕在化すると事業に損害を与え破綻にいたるような好ましくない事象(リスク)が多く存在する。このため事業施行者にとって、顕在化する確率が高く、顕在化した場合の事業破綻につながる可能性が高いリスクに対して優先的、かつ事前に対応することが重要となっている。また近年はリスクの顕在化によって事業の収入不足が生じ危機的状況に陥っている地区も多く、資金計画を再構築する必要があるが、この方策は専門家の経験則・暗黙知に留まっているのが現状であり、事業再建の方策を施行者が判断することが困難となっている。すなわち、土地区画整理事業で発生するリスクを特定し、その顕在化を防ぐための効果的な対策の選定、さらにはリスクが顕在化した場合の資金計画の再構築方策などを体系的にマネジメントする手法の開発が必要とされている。なお、土地区画整理事業には組合施行と公共団体施行があり、このマネジメント手法はそれぞれに対して検討される必要がある。</p> <p>本研究は、まず、組合施行と公共団体施行の土地区画整理事業の専門技術者が暗黙的に有するリスク対策、ならびに危機的状況時での資金計画の再構築方策の有効性と実現性に対する評価が、人口集中地区(DID)内の事業であるか否かによる施行地区の特性や、施行者(組合施行、公共団体施行)により違うことを明らかにしている。次いでこれらの特性分析に基づいて、実務に適用可能な「リスク削減」や「リスク受容」等のリスク対応方針の決定手順フローや危機対応としての資金計画再構築方策の検討・選択を支援するフローを作成し、専門技術者が蓄積しているリスクおよび危機への対応の知見の形式知化を試みたものである。</p> <p>本論文の各章について概説すると、第2章において区画整理技術者および施行者へのアンケート調査によって組合施行と公共団体施行におけるリスクを特定し、関連文献と公的調査結果よりリスク特定の妥当性を確認した。次いで第3章では前章で特定したリスクに対して、区画整理技術者と施行者へのアンケート調査によって組合施行(8県42地区)と公共団体施行(34都道府県130地区)の地区におけるリスクの影響度を評価するとともに、それらの評価特性が人口密集地(DID地区)とDID以外の地区や施行者によって異なることを明らかにした。</p> <p>また第2章で特定したリスクに対して、区画整理技術者と施行者へのアンケート調査により顕在化を防止する対策(第4章)と、リスクが顕在化した危機的状況での再構築方策(第5章)を特定するとともに、それら対策の有効性と実現性を組合施行(11都県39地区)と公共団体施行(31都道府県108地区)の地区を対象とした技術者・施行者へのアンケート調査で評価した。また第5章では、実務において再構築方策を選択する手順を事業プロセスに沿って体系化した。</p> <p>第6章では、リスクマネジメント手法として、事業手順に沿ったリスク対応方針の決定手法を提案するとともに、仮想事業に適用して提案手法の実用性を確認した。</p> <p>以上より本研究の成果は、土地区画整理事業の実務においてリスクの対応方針や適用する対策の検討に利用が可能であると考えられる。</p>	

- (注1) 論文博士の場合は、「専攻、入学年度」の欄には審査を受ける専攻を記入すること。  
(注2) フォントは和文の場合、10.5ポイントの明朝系、英文の場合12ポイントのtimes系とする。  
(注3) 学位論文題目が外国語の場合は日本語を併記すること。  
(注4) 和文又は英文とする。